

11 防災航空業務の実態

(1) 防災航空体制

ア 導入の経緯

本県は、海拔 0m から 3,000m までの変化に富んだ地理的条件下にあり、常に各種自然災害等に見舞われてきた。災害に強い安全な県土づくりとともに、防災体制の強化を図り、県民の安全な暮らしを確保することは重要な課題である。

こうした中で、平成 6 年 4 月に防災ヘリコプター「若鮎 I」の運行を開始し、火災・救急救助、救援物資の搬送等各種活動を行っている。

平成 9 年 4 月からは「若鮎 II」の導入により、2 機体制により緊急時の大量輸送や山岳救助等をより充実し、また、点検等による運行不能日を解消するため、消防防災体制の充実強化を図っている。

このように防災ヘリコプターの需要が高まる中、平成 21 年 9 月 11 日北アルプス・奥穂高岳で救助活動中の「若鮎 II」が墜落し、3 名の尊い同僚の命が失われた。

事故後、安全管理体制の徹底を図り、安全運航を基本理念とした運航体制を構築している。

防災ヘリコプターは捜索救助・火災防ぎょなどにおいて重要な役割を担っていることから、防災ヘリコプターの 2 機体制を維持し、県民の安全・安心を確保するため、「若鮎 III」を平成 23 年 3 月に導入した。

今後は、各種訓練を十分に実施し、安全運航体制を確認した上で緊急運航を開始する。

イ 活動内容

- ・ 火災防ぎょ活動
- ・ 山岳・水難事故等における検索、救助
- ・ 傷病者等の救急搬送
- ・ 各種災害における被害状況の把握、情報収集
- ・ 各種災害における救援物資、人員及び資機材等の搬送
- ・ 広域災害応援活動
- ・ 各種防災訓練等への参加
- ・ 災害等予防広報

ウ 防災ヘリコプター概要

機名	若鮎 I	若鮎 III
型式	川崎式 BK117B-2	ベル式 412EP
国籍及び登録番号	JA6724	JA119V
全長	13.00m	17.10m
主回転翼直径	11.00m	14.00m
全高	3.85m	4.60m

エ 主な装備品

空中消火装置、担架装置、ホイスト装置、リペリング装置、サーチライト、機外拡声器、カーゴフック等

オ 応援協定

大規模災害時及び、耐空検査等による運行不能時における救援活動等を速やかに行う為、近隣県と協定を締結し、災害時等の応援態勢の強化を図っている。

- ・ 災害応援協定に関する協定（中部 9 県 1 市応援協定）
- ・ 岐阜県・滋賀県航空消防防災相互応援協定（滋賀県）
- ・ 富山県・長野県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（富山県、長野県）

- ・ 四県一市航空消防防災相互応援協定（愛知県・三重県・名古屋市・静岡県）
- ・ 石川県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（石川県）
- ・ 福井県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（福井県）
- ・ 災害航空応援協定（川崎重工業、セントラルヘリコプターサービス（旧カサキヘリコプターシステム））
- ・ 災害支援協力に関する協定（岐阜県ゴルフ連盟）

カ 場外離着陸場

航空自衛隊岐阜飛行場以外に、ヘリコプターの離着陸場として公園、河川敷、運動場、病院など、県内84ヶ所（平成22年12月31日現在）を確保している。病院関係では県立多治見病院、中濃厚生病院、岐阜大学医学部附属病院、県総合医療センター、岐阜赤十字病院、大垣市民病院の屋上にヘリポートを備えている。さらに、災害時等に備えて、小中学校等の運動場や公園などを緊急離着陸場として指定している。

(2) 平成22年の主な活動内容

平成22年の活動としては、緊急運航に214回181時間20分、自隊訓練に131回171時間49分、市町村等参加訓練に38回36時間01分、県外訓練参加に2回3時間14分、行政利用に7回6時間35分、その他（試験飛行等）に16回9時間49分、延べ408回408時間48分の活動を行った。

(3) 防災航空隊の応援要請にかかる手続きについて

- 1 出場要請（消防本部→防災航空センター） 電話 058-385-3772
FAX 058-385-3774

- 2 要請の報告（防災航空センター→防災課）

- 3 出場の決定（防災航空センター）

- 4 出場の回答（防災航空センター→消防本部）

回答内容

- ・ 航空隊側の指揮者氏名
- ・ 無線の使用周波数・コールサイン
- ・ 到着予定時間
- ・ 活動予定時間
- ・ その他必要事項

- 5 出場

※ 夜間の受付（17:15～8:30）は、岐阜市消防本部（指令室）で受付を代行します。

なお、6月～8月については19:00～8:30

電話 058-262-8151

FAX 058-266-8155

